



知財管理10月特集号「多様なプレーヤーで盛り上げる地方創生」

「知財管理」誌10月号は、地方創生の取り組みと知財の関わりについて、今後の展望を多角的に考察しています。地域の産業構造や技術革新、各種施策等を踏まえ、日本における地方創生の将来像を考える契機となることを目指しました。産学官民それぞれの取り組みを論じた記事を通じ、多様なアプローチや知見を紹介しています。なお今回はインタビュー企画にも力を入れ、3稿を掲載していますので、以下に概略をご紹介します。

杉村 太蔵 氏
株式会社ここはれて 代表取締役
杉村太蔵氏の視点を通じて考える
今後の地方創生について

企画タイトルをご覧になって興味を持たれた読者も少なからずいらっしゃるのではないのでしょうか。今回、元衆議院議員で、現在はタレントとして多くの番組に出演されている杉村太蔵氏本人へのインタビューを実施しました。

杉村氏は、実業家としての顔もお持ちで、「新規創業支援を中心とした商店街活性化事業に取り組む」を掲げて「株式会社ここはれて」を設立し、地方創生のために尽力されています。

本企画では、杉村氏が地方創生に取り組むに至った経緯や現在の取り組みの具体的な内容にも触れつつ、杉村氏の目から見た地方創生の活性化に向けて必要なことを語っていただきました。また、新規創業を志す方々にとっての知財に対するイメージについて生の声をお聞かせいただきました。

濱田 健吾 氏
株式会社アクポニ 代表取締役
アクアポニックスが目指す、持続可能な循環型社会

アクアポニックスは、魚の養殖と植物の栽培を組み合わせた循環型農業として近年注目されており、地方創生の観点からも期待されています。インタビューでは、神奈川県藤沢市にある同社の農場を見学し、濱田氏から直接、設備や取り組みについて詳しくご説明いただきました。テクノロジーを駆使してDX化を進める新しい農業のスタイル、無いものは自分たちで作ってしまう技術開発力、バイオニア企業ならではの知財戦略も興味深かったです。地方創生への貢献や可能性はもちろんですが、バイオニア企業として新たな市場を開拓し、業界の発展に尽力する姿勢は、スタートアップ企業の歩みとも重なります。新しい事業を開拓しようと奮闘されている方にとっても、参考になる点があると思います。濱田氏が、「未利用の資源は宝の山」と目を輝かせて語った姿も印象的でした。

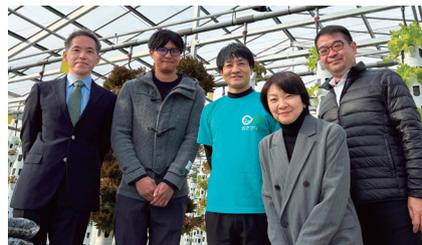
瀬田 元吾 氏
株式会社フットボールクラブ
水戸ホーリーホック 執行役員事業本部長
水戸ホーリーホックが挑む「地域密着」のその先

市民クラブとして30周年を迎えたJリーグクラブ「水戸ホーリーホック」事業本部長の瀬田元吾氏にインタビューを行いました。同クラブが、地域住民や行政、企業と連携しながら進めている独自の地域貢献活動や、知財を活用したブランディングの工夫、さらには再生可能エネルギーへの取り組みまで、多岐にわたる挑戦について熱く語っていただきました。「おらが街PRリーグ」や「ご当地ホーリーくん」といったユニークな施策を通じて、「地域の財産＝地財」としての価値を創出し続ける姿勢は、知財活動の新たな可能性を感じさせるものであり、地域とともに歩むクラブの姿勢に深い感銘を受けました。

本稿では、スポーツと知財、そして地方創生をつなぐ新たな視点を提示しています。



杉村氏(中央)



濱田氏(中央)



瀬田氏(左から2人目)